

令和5年度 学校関係者評価委員会 審議内容（令和4年度実績）

令和5年6月、8名の教員によって実施した自己点検・自己評価をもとに、第3者（外部委員）を交えた学校関係者評価委員会で（令和5年9月）で評価（審議）した内容は次のとおり。

令和2年度から毎年1回ですが、自己点検・自己評価を行い、この会で報告させていただいています。今回は、過去3年間の自己点検・自己評価の状況と加えて3年間の変化や違いなども含めて、その結果を発表させていただきたいと思います。各先生方からのご助言やご意見をいただき、これからの学校運営に活かし、より一層の教育環境の向上を図っていきたい所存です。どうぞ忌憚のないご意見をいただければと思っています。今回の自己点検は、令和5年6月に8名の教員によって実施しました、

- I. 教育理念・目的・育成人材像については、2.65点と昨年より0.15の上昇がみられている。教育理念や教育方針は、各教室などの目にするところに掲示し、長くこの理念を継承していることもあり、3.3と高値である。ただ社会のニーズなどを踏まえた将来構想を抱いているかについては、過去3年間で最も低値で1.9となっている。これは、将来構想について、教職員や学生、保護者、関連業界に周知する機会を設けていないことなどがある。
- II. 学校運営では、過去3年間で最も低く2.01となっている。その中で最も低いのが、設置法人の組織運営を適切に行っているかが、1.5点と一番低くなっている。これは、この自己点検を行ったのが、令和5年6月であり、病院の法人から職員の募集停止などの影響が推測される。教員も経営に対する不安などから意思決定システムも1.9と低値となっている。ただ、学校運営のための組織を整備しているかでは、教員が充足していることなどもあり3.1となっている。
- III. 教育活動では、新カリキュラムの導入で教育課程に対する関心が高くなっている。その結果、①・②・③・⑥・⑦・⑨・⑩は3点台である。各先生方は今の学生に対してのレディネス等を考えて教材などを作成していることもこの結果を反映しているものと思われる。最も低い⑧の作品及技術などの発表における成果を把握しているかでは、それぞれの科目での発表などで公表することもないことで成果を把握しきれないのが低値であると考え。ただ、交流会などでは学生間で称賛したりすることはできている。
- IV. 学修成果では、就職率は100%で3名の不合格者も就職することができている。国家試験の合格率については90%で前回から10%減少している。卒業生の社会的評価は把握しているかでは、1.8と例年同じであるが、実習施設に就職した学生については、卒業生の状況を確認したり、卒業後に施設からのお便りで状況を把握することはできている。卒業生が臨床の現場で問題になることは、学校内においても表れている傾向があるように伺える。
- V. 学生支援は、2.52と少し上昇傾向にある。進路については学生が悩むことで教員に相談があったりするが、去年は、就職後の合否を伝えてこない学生がいた。学生は自分で行きたいところを決めた場

合は、特に報告がない傾向にある。

今年の卒業生は、入学時 38 名で 25 名が卒業した。科目留年者としては、5 名が在籍している。8 名が退学していて、実習等についていけないと判断し、辞めた学生や、親の勧めがあり、本当はしたいことがあったと 3 年生になって辞めた学生もいた。1 年で退学し卒業式のお祝いに来ていた学生は、「いまやったらやれそう」と社会人になって経験したことで学校の決まりなどを受け入れられると話していた。

VI. 教育環境は、コロナ禍でもあり、学内の安全管理体制は完全なものではなく、2.2 と低値である。防災などでは、訓練を実際に行っていることで 3.1 と整備されていると評価している。今年の夏期休業中に各教室及び実習室の冷暖房を入れ替えたことで、教育環境が整備されている。

VII. 学生の募集と受け入れについては、例年と同じように学校説明会、高校への訪問説明会に参加していることもあり、3 点台と高い。入学選考に関する実績を把握し、授業改善等は点数が高値になっていることから変更している傾向である。入学生は定員に見たいしていないのが昨年と引き続いている。

VIII. 財務については、相変わらず 1 点台と低値を示している。図書や学内実習に関連した教材は、例年と同じように購入できている。特に規制されていないことも低値というか、関心さに対する結果のようでもある。令和 5 年度に向けて大学無償化の申請等を行っていたが、職員が関心できるような申請計画をすることも財務についての意識向上を図れるようにも思う。

IX. 法令等の遵守については、学校設置基準を遵守し、適正な学校運営を行っていることについては、少し上昇している。これは適正な学校運営をしているという結果からといえる。学校関係者評価の結果は、学校ホームページに掲載しないと大学無償化の制度を受けられないことなどを知らない教員もいる。

X. 社会貢献・地域貢献では、学校の教育資源を活用した社会貢献は、検血などの教科外活動が中心である。学生へのボランティア活動では夏季休業中に訪問看護ステーションに参加する支援を行っている。

全体を通じて

自己点検・自己評価について行うことが、今回で 3 回目である。自己点検・自己評価委員会を設立するよう計画したが、実際には各教員で評価の視点に基づいて調査する結果になっているのが現状である。ただ、各教員は 3 回の実施で評価の視点が理解していると感じる。それは、全体に実施できていることやできていないことが明確に評価として客観的な数値として表れている。今後はさらに、学校の自己点検・自己評価を行うことで、当校の問題や課題に取り組んでいけるようにしたい。